

しまなみ

尾道市立市民病院広報誌

第40号

発行日：2018年10月

〒722-8503
尾道市新高山3丁目1170-177
tel:0848-47-1155
fax:0848-47-1004
<http://onomichi-hospital.jp/>

院内広報誌
第40号

尾道市立市民病院理念

尾道市立市民病院は、信頼される安全で
質の高い医療を提供し、市民の皆さまの健康を守ります。



ごあいさつ

副院長 大枝 忠史

皆様、こんにちは。尾道市立市民病院副院長大枝です。今年の夏は7月の豪雨に続き、梅雨明け後は連日の猛暑で、約2カ月の間、台風の接近以外は1滴も雨が降らないという本当に大変な夏でした。「猛暑」・「激暑」に替わり「危険な暑さ」という、これまで聞き慣れなかった言葉を毎日のように耳にしました。豪雨で被災された方もいらっしゃるかと存じますが、1日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

当院は高台にあるため水害を直接被ることはまずありませんが、7月の豪雨の後には断水のため、数日間は一一部で通常業務ができなくなりました。予定していた手術や検査を延期せざるを得ず、血液透析を市外の医院にお願いし、大変なご迷惑をおかけしましたこととお詫びいたします。また、多くの方々のご助力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。私は個人的には瀬戸内地方は大きな災害とは無縁、などと高をくくっておりましたが、そのような勝手な思い込みが通用しないことを痛感いたしました。災害の際に病院の機能を維持し市民の方々の支えとなることは、当院の大きな務めであることを肝に銘じ、職員一同改めて気を引き締め努力

して参る所存です。

当院では地元医師会の先生方との連携を密に保ちながら、安全・安心で信頼される医療の提供を常に目指しております。医師不足や施設の老朽化により皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、限られた人員の下でも医療の質を落とすことなく、皆様にご満足いただけるよう最大限の努力をいたしております。ご意見・ご批判を賜ることができましたら幸いに存じます。

今回の「しまなみ第40号」では7月豪雨被災地での医療支援活動参加への報告、糖尿病看護認定看護師・新任医師の紹介、ロコモ体操の紹介などを掲載いたしております。ご一読いただき、この冊子が当院の活動へのご理解の助けとなれば幸いです。また、引き続き開かれた病院を目指し、市民公開講座、オープンカンファレンス、病院祭、文化祭等の行事を例年通り計画いたしております。これらの行事にご参加いただくことにより、病気について知っていただくとともに、当院がこれまで以上に皆様の身近な存在になれることを願っております。今後とも尾道市立市民病院をよろしく願いいたします。

平成30年7月豪雨被災地での医療支援活動

7月の豪雨災害で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりのお見舞いを申し上げます。

当院では、豪雨災害で被災された方への支援として、災害支援ナースの派遣（広島県看護協会からの要請）や臨床心理士などによる避難所の訪問（尾道市からの要請）を行ないましたので、その活動内容についてご報告します。

災害支援ナースについて

「災害支援ナース」とは、看護職能団体の一員として、被災した看護職の心身の負担を軽減し支えるよう努めるとともに、被災者が健康レベルを維持できるように、被災地で適切な医療・看護を提供する役割を担う看護職です。実務経験5年以上で、一定の研修を受講した看護職が都道府県看護協会に登録されています。

1995年の阪神淡路大震災を契機に、大規模災害に対応するため、2000年から災害支援ナースの登録が開始されました。2017年3月時点で全国9,345人、当院には9人の災害支援ナースがいます。

大規模災害発生時には、災害の規模などに応じて「レベル1・2・3」に区分し、災害レベルごとに定められた方法で、日本看護協会、または災害が発生した都道府県看護協会が災害支援ナースの派遣調整を行います。災害支援ナースの活動時期は、災害発生後3日以後～1カ月間を目安とし、1人の派遣期間は、移動時間を含め3泊4日とされ、自己完結型を基本としています。活動場所は、原則として被災した医療機関・社会福祉施設・福祉避難所を優先し、他組織から支援のない場

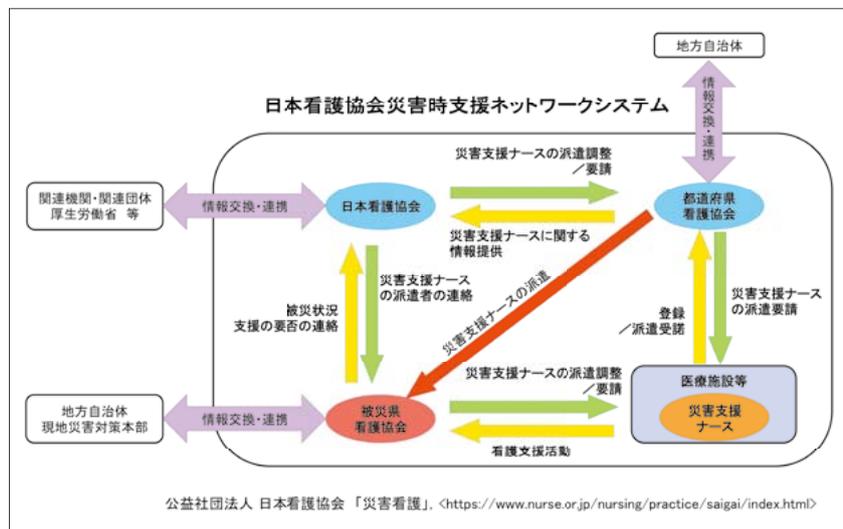
合に限り、避難所等で被災地の看護管理者の指示に従い、災害時看護活動を行います。

今回の7月豪雨災害に対して、広島県は近隣県派遣レベル2の対応を決定しました。当院からは、3人の看護師が呉市と坂町の避難所において環境調整、被災住民の健康管理やこころのケアなど看護活動を行いました。

災害支援ナース派遣の基準

災害対応区分	災害の規模	災害支援ナースを派遣する看護協会	派遣調整
レベル1 (単独支援対応)	被災県看護協会のみで看護支援活動が可能な場合	被災県看護協会が災害支援ナースを派遣する	被災県看護協会
レベル2 (近隣支援対応)	被災県看護協会のみでは困難または不十分であり、近隣県看護協会からの支援が必要な場合	被災県看護協会および近隣県看護協会が災害支援ナースを派遣する	日本看護協会
レベル3 (広域支援対応)	被災県看護協会および近隣県看護協会のみでは困難または不十分な場合 活動の長期化が見込まれる場合	全国の都道府県看護協会が災害支援ナースを派遣する	

公益社団法人 日本看護協会「災害看護」、<<https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/saigai/index.html>>



災害支援ナース HCU 竹内 恵美

この度、7月21日～24日の期間、呉市天応まちづくりセンターで災害支援活動を行いました。活動時間は、17:00～翌朝8:30でした。

今回で災害支援ナースとしての活動は2回目となります。支援活動は、公衆衛生チーム（保健衛生班）として保健師、薬剤師の方々と連携を図りながら、避難者の健康管理や避難所の生活環境の改善・支援を目的として行いました。

災害時には、被災地の住民全員が避難の対象となります。今回、発達障害の方も避難されており、体育館のフロアでの共同生活が難しいため



呉市天応地区



天応まちづくりセンター

図書室を生活の場として提供していました。本来は避難された方が使用する図書室ですが、今回のケースのように個人の生活の場として提供することもあります。さまざまな背景を持つ地域住民の生活を支援することについて改めて考えさせられる経験となりました。今後も自分にできることは何か、今回の経験を踏まえ、災害看護に対して知識を深めていきたいと考えています。

また今回の災害は、被害が広範囲であり、街の復興を含め長期的な支援が必要となります。被災地域の1日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

災害支援ナース 3病棟 熊田 愛弓

この度、呉市天応地区へ赴き、発災後17日目となる7月21日～24日の4日間、災害支援ナースとして支援活動を行いました。



呉市天応地区

派遣先は準福祉施設といわれる健康や生活に配慮を要する方（災害弱者）が入る施設で、約65人の避難者が生活していましたが、ほとんどの方が高齢者でした。

避難者のなかには腎不全や糖尿病を患ってい



呉市天応地区

る方もいましたが、制限食等ではなく、健常者と同じ食事が提供されていました。避難者に関わるなかで食事に対する不安を訴える声も多く聞きました。そこで現場を統括する保健師に働きかけ、食事制限が必要とされる避難者に対し、制限食を提供することが実現しました。そのなかで、避難者の方からは「食べやすくよかった」と良い反応がもらえました。

今回の支援活動を通して、保健師や薬剤師、現

地スタッフと連携してチームで関わることと、食事に関して制限食を提供することで、避難者の健康レベルを少しでも維持できるよう看護することができました。

初めての災害派遣で、実際に現地に入らないと分からないことばかりで、学び多きものでした。そして支援活動を通して、「被災地で適切な看護を提供する」という重要性を改めて感じました。

災害支援ナース HCU 松並 諒憲

この度、8月14日～17日まで呉市小屋浦地区で災害支援ナースとして支援活動を行いました。豪雨災害から約1カ月経過していましたが、小屋浦ふれあいセンター、小屋浦公民館、小屋浦小学校の3カ所に約120人の避難者の方々が避難所暮らしを余儀なくされていました。避難者の出入りが激しく、避難指示が出れば一時的に避難者が増えるなど、流動的な人の流れを把握することがとても大変な作業でした。

支援内容は、避難者の健康管理、J-MAT（日本医師会災害医療チーム）への受診調整と介助、避難所の環境調整、避難者以外の近隣住民やボランティアの方などの有症状者への対応を行いました。

昼間に被災住宅の土砂撤去を行い、夕方に避難所に戻って来られる避難者の方々は、熱中症の症状や作業中の怪我などにより、J-MATの診察時間外に来られることが多く、緊急度と重症度の判断が求められました。

いつでも相談できる医師がいる病院とは違い、

自分達で判断しなければならない状況に、改めて責任の重さと重要な役割であるということを実感しました。

8月末で避難所での災害支援ナースの活動は終了しました。高齢者の方のなかには、今後も継続的な支援が必要な方もおられます。災害支援ナース派遣は終了しましたが、今後も支援が行われるように「支援のバトン」を次に引き継ぐことが、災害支援ナースの最後の役割だと感じました。



小屋浦公民館の一室

臨床心理士 村山 直子

臨床心理士は、普段は入院患者さんを中心に、気持ちの整理のお手伝いや、よりよい療養のための生活習慣改善のお手伝いなどをさせていただき仕事をしています。

さてこの度、7月豪雨災害にて避難生活を送っている方への心理的な支援を目的に、尾道市健康推進課の保健師とともに、いくつかの避難所を訪問しましたので、簡単にですがご報告させていただきます。

当院では、断水解消後に避難者への医療支援

を目的に、災害支援ナース2人、感染管理認定看護師、理学療法士、臨床心理士各1人の計5人からなる災害支援チームを結成しました。その後避難所を運営している市とも協議し、避難者のニーズや避難所の状況に合わせ、臨床心理士が訪問させていただくこととなりました。私が訪問した避難所は、避難者数は多くはないものの、避難の長期化が予想され、また時期的にも今後の生活の見通しが立たない状況の方が多くいらっしゃいました。

避難者の方々から、気持ちが落ち着かず夜も眠れない、ちょっとした物音でも災害を思い出し怖くなる、避難所では心休まらない、などの多くのお話を聞かせていただきました。市民病院の臨床心理士として何ができるのか、その方々

の家族や友人といった人的資源、かかりつけ医や当院といった医療資源を活用できないかと考えながら、お話を聞かせていただきました。

また、被災直後に起こる様々な心身の変化とその対応についてのパンフレット(広島県臨床心理士会作成)をお渡しし、今後の生活に向けての心のあり方について知っていただくよう説明し、少しでも被災された方の心の回復のお手伝いができるよう考えました。

たった一度の訪問で、臨床心理士として何ができるのかについて考え、悩みながらの訪問でしたが、当院の医師、看護師、事務職などと連携し、避難所訪問できたことは、よい経験となりました。今後の臨床に活かしていきたいと思えます。

認定看護師紹介



糖尿病看護認定看護師
古賀 純子

糖尿病は生涯にわたって生活調整を必要とする疾患です。しかし、現実問題として糖尿病と共存して良好な生活を続けることが困難なケースが多く、また、多様化する社会生活のなかで、セルフケアの継続はとて難しくなっています。

糖尿病看護認定看護師の資格を取得後、外来で活動していますが、糖尿病患者さんに関わる時間が限られるなか、できるだけ患者さんの思いを傾聴し、一緒に考える姿勢を大切にしています。そして、糖尿病と付き合いながら普通の生活が送れるよう身体・心理・社会面から幅広くアセスメントし、セルフケアに対する継続的支援を行っています。また、合併症予防対策としてフットケア外来や血管診療センターの一員としても活動をしています。

現在、糖尿病ケアチームの活動として、他職

種のスタッフと共に糖尿病教室を通しての患者教育を行っています。院内研修会には、地域の病院、施設にも声をかけ、スタッフの知識、技術の向上と共に地域との連携を図ることに努めています。

院外では、地域での講演や、健康祭りにおいて、他の病院と連携して啓蒙活動を行っています。また、福山・尾三地区を中心に看護師をはじめコメディカルを対象に、地域の病院スタッフと共に毎年2回研修会を開き、スキルアップに努めています。

糖尿病看護認定看護師として、私にできることがあれば何でも相談していただけたらと思います。



新任医師の紹介



泌尿器科 医長
杉本 盛人

2018年7月より尾道市立市民病院へ赴任して参りました、泌尿器科の杉本盛人(すぎもともりと)と申します。

2000年3月に岡山大学を卒業後、岡山済生会総合病院、新居浜市の十全総合病院、香川県立中央病院、岡山ろうさい病院、岡山大学病院を経て、この尾道に参りました。大学病院では主に男性性機能、男性不妊、性同一性障害を専門としつ

つ、泌尿器悪性腫瘍に対しての開腹、腹腔鏡、ロボット手術を数多く行って参りました。と言うわけで、専門は？と聞かれますと「オトコの機能」及び「手術」と答えるようにしております。

経歴を見ても分かりますように、尾道はおろか広島県内での勤務は初めてです。昔から不慣れなことに慣れていくのは大好きなので、不安よりは期待の方を強く感じております。また、風情のある街歩きは好きでしたので、早速、古寺巡りをさせていただき、大変満足しております。

手術全般は自称ではありますが、得意としております。とくに悪性腫瘍を手術で治療することは、泌尿器科医の使命だと感じております。まだまだ勉強中の身ですが、皆様のお役に立てるよう一層、奮励努力させていただく所存です。宜しくお願いいたします。

病院祭・文化祭開催のお知らせ

下記のとおり、2018年度市民病院 病院祭・文化祭を開催いたします。
これは職員と患者さんや地域の方々とのふれあいを深めるために開催しているものです。
皆様、どうぞお気軽にご来場下さいますようお願いいたします。

第5回 病院祭

日時：2018年10月13日(土) 10:00～15:00
場所：尾道市立市民病院 1階フロア・駐車場等
内容：ステージイベント・体験コーナー・キッズコーナー等を予定。

【お問い合わせ】

担当：尾道市立市民病院 庶務課 橋本
TEL：0848-47-1155(内線202)



昨年の病院祭の様子

第31回 厚友会文化祭

日時：2018年10月12日(金) 9:00～17:00
10月13日(土) 10:00～15:00
場所：尾道市立市民病院 新館4階 大会議室等
内容：作品展示・お茶会・アロママッサージ等を予定。

【お問い合わせ】

担当：尾道市立市民病院 医事課 岩田
TEL：0848-47-1155(内線119)



昨年の文化祭の様子

地域包括ケア病棟での取り組み

～ロコモ体操で体も心もリフレッシュ～

2017年6月より、新館3病棟を「地域包括ケア病棟」として開設しました。

この病棟では、患者さんやご家族の方が、安心してご自宅に帰れるように、様々な職種が連携して、在宅復帰支援を行っています。入院期間が1カ月以上になることも多いため、患者さんには少しでもリフレッシュできるようにと、病棟看護師によるロコモ体操やお楽しみ会を行っています。

「カープ応援歌」や「ひろしま県民体操」「広島弁版ラジオ体操」など、音楽に合わせて、無理のないように体を動かし楽しく行っています。日頃の運動不足の解消にと、他部署の看護師も参加しています。

首の運動

- ①首を前後や横に曲げたり、ねじったりすることにより、首や肩の筋肉を伸ばして血液の循環をよくします。
- ②首の可動域を広げて、行動の安全性を高めます。
- ③頸椎部のそり過ぎを予防します。



手と腕の運動

- ①手を握ったり開いたりすることで、指の筋肉や神経をしっかり動かし、脳にも刺激を与えることになります。
- ②手を前にぶらぶらと揺らすことも、血液の循環がよくなる効果があります。
- ③手や腕、脇の筋肉を伸ばすことで、胸郭も広がります。



足の運動

- ①椅子に座った状態で、脚を水平に持ち上げると大腿四頭筋が強くなります。
- ②足首を上下に動かすことでふくらはぎが動き、血液循環がよくなり、エコノミー症候群の予防になります。
- ③足踏みをすることで体のバランスがとれます。



毎週火曜日14時から20分程度行っています。この取り組みが継続していることで、皆さんに喜んでいただき、楽しみに待っていてくれています。さすが！！カープ応援歌には大きな力があります。



お楽しみ会の開催

ボランティアさんによる演奏会なども企画しています。皆さんが集まって、一緒に楽しむことがリフレッシュにつながると思います。多数のご参加をお待ちしています。



科別診療割表

診療受付時間 午前8時30分から午前11時まで (救急は随時)
 休診日 土曜日・日曜日・祝日・12月29日から翌年1月3日

診療科	科別	月	火	水	木	金	備考	
内科	午前	1 診	水戸川 剛秀 (内科全般)	岡本 修吾 (総合診療)	金尾 浩一郎 (腎・内科全般)	水戸川 剛秀 (内科全般)	藤本 靖郎 (総合診療)	
		2 診	藤本 靖郎 (総合診療)	開原 正展 (腎・高血圧)	開原 正展 (腎・高血圧)	金尾 浩一郎 (腎・内科全般)		
		3 診		長澤 紗詠子 (糖尿病)	藤本 靖郎 (総合診療)		長澤 紗詠子 (糖尿病)	
		4 診			平野 紘康※2 (リウマチ・膠原病)	山脇 泰秀 (総合診療)	山脇 泰秀 (総合診療)	※2 予約制
		5 診						
	午後		検診 長澤 紗詠子	検診 フットケア外来※3	検診	検診 長澤 紗詠子	※3 第2・4水曜日	
総合診療科	午前					山脇 泰秀		
	午後							
呼吸器内科	午前	西井 和也	西井 和也	片岡 幹男		片岡 幹男		
	午後	検査			岡本 誠 ※4		※4 14:00~17:00	
消化器内科	午前	1 診 松本 栄治	平岡佐規子	河合 良成	河合 良成	宮部 欽生		
	2 診		宮部 欽生					
	午後	検査	検査	検査	肝臓専門外来※5	検査	※5 担当医 (河合)	
循環器内科	午前	1 診	山田 大介	圓光 賢希	高村 俊行	高村 俊行	小林 博夫	心臓リハビリテーション外来 (月・水・金) 15:00~16:00
		2 診	小林 博夫					※6 第1・2火曜日 14:00から
		診察		ペースメーカー外来※6				13:00~17:00
	午後	検査 心カテ 血管診療センター	検査 心カテ 検査・診療	検査 心カテ 検査	検査 心カテ 検査	検査 心カテ 検査		
神経内科	午前		岡本 美由紀				予約制	
	午後							
外科 (肛門科)	午前	1 診	川真田/小野田	宇田 征史	宇田 征史	小野田 正	村田 年弘	
		2 診	井上 弘章	上塚 大一	木村 圭佑	川真田 修	川真田 修	
		3 診			上塚 大一 (肛門科)			
	午後	手術 (ストーマ外来) ※7	検査	手術	検査	手術	※7 第2・4水曜日	
血管外科	午前		越智 吉樹		越智 吉樹			
	午後	手術		手術		手術		
乳腺外科 (乳腺外来)	午前	突沖 貴宏				下妻 晃二郎 (予約)	9:00~12:00	
	午後	突沖 貴宏						
整形外科	午前	1 診	廣岡 孝彦 (予約)	藤井 淳一	廣岡 孝彦 (予約)	藤井 淳一	廣岡 孝彦 (予約)	
		2 診						
		3 診	藤井 淳一	迫間 巧将	迫間 巧将	渡邊 益宜	小野 智毅	※8 渡邊 (第1・3・5金曜日)
		4 診	渡邊 益宜	小野 智毅	井上 博登	井上 博登	渡邊/藤井※8	※8 藤井 (第2・4金曜日)
		5 診		装 具			装 具	
	午後	手術	手術	手術	手術	手術		
形成外科	午前		寺本 未織	井上 温子				
	午後		寺本 未織	井上 温子				
小児科	午前		井上 直樹	井上 直樹	井上 直樹※9	井上 直樹	井上 直樹	※9 第2水曜日休診
				佐藤恭子(循環器外来)※10		林(発達外来)※11	脇 (循環器外来) ※12	※10 第2・4・5火曜日 14:30から
			予防接種	乳児検診	予防接種	食物負荷試験	低身長	※11 第1木曜日 (偶数月) ※12 第4金曜日
小児外科	午前		野田 卓男 (予約) ※13				※13 第1・3火曜日	
	午後							
脳神経外科	午前	1 診	土本 正治	大同 茂	岩戸 英仁	土本 正治	細本 翔	※14 大同(第1・3・5金曜日)
		2 診					大同/岩戸※14	※14 岩戸(第2・4金曜日)
		午後	検査	手術	検査	手術	検査	14:00から
	午後	土本 (頭痛外来)						
産婦人科	午前	新患再来	大村 裕一	大村 裕一	大村 裕一	大村 裕一	大村 裕一	
		午後	検査	手術	検査	検査	検査	
	午後		予約外来		予約外来			
皮膚科	午前	櫻野 かおり	櫻野 かおり	櫻野 かおり	櫻野 かおり	櫻野 かおり		
	午後	検査	手術	手術	検査	検査		
泌尿器科	午前	1 診	大枝 忠史	井上 陽介	大枝 忠史	杉本 盛人	大枝 忠史	
		2 診	杉本 盛人	大枝 忠史 (予約)	杉本 盛人	大枝 忠史 (予約)	井上 陽介	
		午後	検査	手術	検査	手術	検査	
耳鼻いんこう科	午前	診療あり	診療あり	診療あり		診療あり	広島大学病院より	
	午後		佐々木 (睡眠時無呼吸外来)					
眼 科	午前					舘見 久恵	午前のみ	
放射線科	午前	画像診断 治療	三船 啓文	三船 啓文 片山 敬久 (予約)	三船 啓文	三船 啓文	三船 啓文	
				画像診断	画像診断	画像診断	画像診断	
		午後		画像診断 (血管造影)	画像診断 (血管造影)	勝井 (治療)		予約制
歯科口腔外科	午前	吉田 明弘	吉田 明弘	手術	吉田 明弘	吉田 明弘		
	午後	口腔外科	口腔外科	口腔外科	口腔外科	手術	予約制	
リハビリテーション科	午前							
	午後		田中 芳幸				予約制	

専門外来のご紹介(予約制)

- 月 曜 : ストーマ外来(第2・4)/頭痛外来
- 火 曜 : ペースメーカー外来(第1・2週)/睡眠時無呼吸外来/緩和ケア相談外来(午前)
- 水 曜 : 禁煙外来(毎週)/フットケア外来(第2・4週)
- 木 曜 : 肝臓専門外来/小児発達外来(第1週)/緩和ケア相談外来(午前)/緩和ケア(精神)外来(第2週)/緩和ケア(身体)外来(第4週)
- 金 曜 : 乳腺外来(午前)/小児循環器外来(偶数月/第4週)

